

和楽器の素晴らしさ知って

和太鼓、篠(しの)笛を取り入れた男性5人組バンド「kogakusyu翔」。30日にリリースする6枚目のアルバム「遙—HARUKA—」を引っ提げ、8月3日に西彼時津町で本県初ライブを開く。長崎にゆかりのあるリーダーの吉村靖弘が「長崎の皆さんに、和楽器の素晴らしさを知ってほしい」と熱く語った。

バンド「kogakusyu翔」
長崎ゆかりのリーダー吉村



「和楽器のライブも一般のライブと同じように楽しんでほしい」と意欲を燃やすkogakusyu翔の吉村
＝長崎新聞社

来月時津で本県初ライブ

yu翔を結成。父は長崎市出身。「長崎ぶらぶら節」の愛八は遠縁に当たる。7年ほど前に長崎市にある愛八の墓参りもした。
ライブでは、アレンジした「長崎ぶらぶら節」も演奏する。「音楽に携わる者として縁を感じました。和楽器のライブも他の音楽のライブと同じフラットな感覚で楽しんでほしい」
アルバム「遙—HARUKA—」(SHEEP WING)は3千円。
ライブは3日午後5時から、ときつかりホール。前売り3600円、当日4千円。学生証、障害者手帳などを当日提示すると500円払い戻す。未就学児は無料。問い合わせは磯さん(電090・5286・1964)。(関根めぐみ)

若いころから、いへ旅する機会があり日頃とは全く違う空を置くことの解放感旅しても、時折は「集合ね」なんて解散の時間を楽しみます。仕事がつきかきにも多いです。特に、もめ食堂」の撮影で滞在したフィンランド。前回は大好きなルシンキは大好きなく滞在していたから手が分るし、現地人もいるので気楽です。
この映画を見て話の方も多いようで、ヘルシンキにいたり、が声を掛けられる現象も起きます。ち光大使みたいな気分映画にも登場しま



「力強いメロディーは勇気を生み、穏やかなメロディーは温かい気持ちを届ける」と語る堀沢麻衣子
＝東京都品川区

5年かけ夢を実現

米プロデューサーとアルバム
音大卒業後、歌手をしながら、5年かけて実現させた意欲作だ。堀沢は「歌り、2008年に渡米した。手として生まれ直した喜びがある」と笑顔で語る。
音大卒業後、歌手をしながら、5年かけて実現させた意欲作だ。堀沢は「歌り、2008年に渡米した。手として生まれ直した喜びがある」と笑顔で語る。
音大卒業後、歌手をしながら、5年かけて実現させた意欲作だ。堀沢は「歌り、2008年に渡米した。手として生まれ直した喜びがある」と笑顔で語る。

「最近、仕事で行った台湾も2泊3日で十分楽しめました」と小林聡美
＝東京都世田谷区

サンデー芸能

オトノススメ

高浪慶太郎

「ロックンロール」という言葉を最初に使ったディックジョッキ、アラン・フリードが主催するショーには、黒人と白人のアーティストが入り交じって出演し、観客もまた多色であった。
「会場には今まで見たこともない数の黒人ティーンエイジャーたちがいたわ。1955年、このショーに足しげく通った当時13歳のニューヨークっ子、キャロル・キングはそう回想する。黒人と白人のティーンエイジャーたちは別々のグループで踊るが、同じ聴衆

の向き合う中で、お互いの存在を何の嫌悪感もなく受け入れているように感じたという。アメリカ南部の劇場では黒人と白人の席がまだ分離されていた時代だ。人種統合運動は、R&Rとティーンエイジャーの間でも無意識に芽生えていた。15歳の高校生キャロルが、ある雑誌で見かけた黒髪で黒い瞳の男性のイラストは、まさに理想の男性像そのものであった。彼女は

「ゴフィン&キング」



「ゴフィン&キング」コレクション1961-1967
1967 (M&M)

そのイラストを切り抜き、そっと財布に忍ばせた。大学生になったキャロルは、ある日友人から夜間部に通う二つ上のジェリー・ゴフィンという男性を紹介された。なんと彼はキャロルの財布の中に忍ばせたイラストにうり二つであった。音楽の話で意気投合したふたりは早速共作を始めた。翌年には人生のパートナーとなる。キャロル17歳、ジェリー19歳の若さであった。伝説のソングライター・チーム「ゴフィン&キング」はこうやって誕生したのである。ふたりの最セクハラやじを飛ばす野暮な都議会議員の先生方に、謹んでこの曲を捧(ささ)げる。(歌手、音楽プロデューサー、長崎市在住) 毎月1回掲載します

人種統合無意識に芽生え



スポット

日々